

生きもの環境水路評価

【東北・関東編】

～生きもの環境評価ツールを使って身近な水路の環境を考えよう～

発行／編集 2007年3月 acles (社) 農村環境整備センター



海と河川・水路を行き来する魚など

ウナギ

成魚の体長は
40～90cm



背びれ、尾びれ、尻びれがつながり、腹びれがなく胸びれが大きくて目立つ。

アユ

10～30cm



(提供：縄谷和海)

唇が厚く瀬の石についた藻類を削ぐように食べる。

モクズガニ

成体の甲幅は
7～8cm



毛がさみ脚に密生しており、大型に成長するほど発達する。

河川と水路を行き来する魚

ギバチ ★

10～22cm



(提供：縄谷和海)

体は細長く、うろこはない。4対のひげがある。水のきれいな河川の上～中流域に生息。

水路と水田を行き来する魚

コイ

成魚の体長は
25～60cm



(提供：縄谷和海)

口ひげが2対ある。中～下流域の淀みや流れの緩やかな淵、湖沼などに生息。

ギンブナ

10～25cm



(提供：縄谷和海)

コイに似ているが体高が高く、口ひげはない。河川の中～下流域、水路、湖沼などに群で生息。

ナマズ

30～50cm



背びれが小さく口ひげは2対で1対は短い。湖沼や河川の中～下流域の泥底部や砂泥底部に生息。

タモロコ ★

5.5～10cm



体側に薄く一本の線が出る。口ひげがあり、うろこは目立つ。流れの緩やかな水路などに生息。

ドジョウ

10～15cm



体は細く、口ひげが5対ある。平野部の水田、湿地、泥底の水路などに多く生息。

メダカ ★

2～3.5cm



尻びれが幅広く長いのが特徴。流れの緩やかな水路や水田に生息。

水路でよくみられる魚

ウグイ

成魚の体長は
12～45cm



繁殖期以外は体色が銀白色で、産卵期には婚姻色で赤い線が出る。河川の上～下流域などに生息。

ヌマムツ

15～20cm



(提供：縄谷和海)

カワムツに似ているが胸びれ、腹びれが赤い。河川の下流域や湖沼に生息。

ヤリタナゴ

5～9cm



体高がやや高く、2本の口ひげがある。湖沼や流れの緩い水路などに生息。

アブラハヤ

5～15cm



体側に黒っぽい線が一本ある。粘液が多くうろこが目立たない。河川の上～中流域などに生息。

カワムツ

7～20cm



胸びれと尾びれが黄色いのが特徴。上～中流域の流れの緩やかな水路などに多く生息。

トウヨシノボリ

4～6cm



体色には地域変異が多い。体側には6～7個の暗色横斑が連続する。湖や川の downstream に生息。

オイカワ

10～14cm



産卵期のオスは美しい婚姻色となり青地にオレンジ色の模様が出る。河川の中～下流域の瀬や淵、水路などに生息。

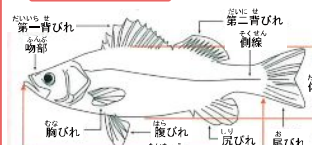
モツゴ

5～12cm



口は小さく、やや上向きについている。河川の下流域や流れの緩やかな水路、ため池に生息。

魚の体のなまえ





湧水や冷水及び中山間地域を代表する生きもの

■ **スナヤツメ** ★ 成魚の体長は15~25cm



水質がよく、流れが緩い泥が堆積する淵と砂礫底の淵がともにある水域に生息。

■ **ヤマメ** 15~30cm



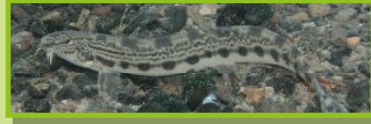
体の側面に上下に長い斑紋模様（パーマーク）がある。上~中流域に生息。

■ **カジカガエル** オス：3.5~4.5cm
メス：5~7cm



体色が河原の石に似た灰褐色で見つけにくい。フィフィフィフィーと通るような声でなく。上~中流域に生息。

■ **シマドジョウ** 6~13cm



中~下流域の比較的水がきれいで流れの緩やかな砂底、砂礫底に生息。

■ **イバラトミヨ** ★ 4~5cm



胸部と尾びれの付け根の近くにうろこ板という大きなうろこが一列に並ぶ。湧水がある水路や湖沼の岸辺に生息。

■ **トウホクサンショウウオ** ★ 10~14cm



全身が黒褐色で、脇腹がやや青みがかった薄い色になっている。低山地などの森林などに生息。

■ **ホトケドジョウ** ★ 4~6cm



水が清澄で冷たく、流れの緩やかな砂泥底で、水草や石などがあるところに生息。

■ **ニホンイモリ** 成体の体長は7~14cm



背中は黒く、お腹には鮮やかな赤い模様がある。水田・湖沼・小川・水溜りなどの止水水域に生息。

■ **サワガニ** 成体の甲幅は2~3cm



甲羅には毛や突起などなく、滑らかである。水がきれいな沢・小川などの上~中流域に生息。

水路で見られる国外外来魚

■ **タイリクバラタナゴ** 成魚の体長は4~7cm



上から見ると体は細いが体高は高い。平野部の河川や水路、湖沼に生息。

■ **カラドジョウ** 10~15cm



ひげが長く、尾の付け根が太い。水田とその周辺などに生息。

■ **カダヤシ** ★ 2~4cm



平地の流れが緩やかな水路などに生息。

水路で見られるその他の国外外来生物

■ **ウシガエル** ★ 成体の体長は15~18cm



日本に生息するカエルの中では最大。背面の皮膚はサメ肌状である。

■ **オオクチバス** ★ 30~35cm



大きく見ればスズキの仲間、背びれが第一背びれと第二背びれに分かれる。

■ **ブルーギル** ★ 10~25cm



体高が高く左右に扁平。うろこは大きく表面はざらつく。

■ **カミツキガメ** ★ 成体の甲長は20~40cm



ペットとして輸入され、繁殖した。名前の通り噛み付くことがある。

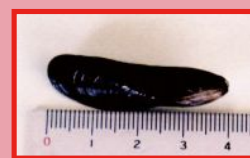
(提供：関東農政局 資源課)

■ **アメリカザリガニ** 7~15cm



全身が太短く、赤褐色で殻も堅い。

■ **カワヒバリガイ** ★



ムール貝に似ているが食べられない。暗いところが好きで、足糸を出して石やコンクリートなどに塊になって付着する。

(提供：関東農政局 資源課)

国外外来生物とは？

国外外来生物とは、外国から日本に持ち込まれたものです。もともといた生きものを食べたり、国内生物と競合するなどし生態系に悪い影響を与えます。★は外来生物法により移動や飼育することを禁止されています。

地域特有の希少な魚

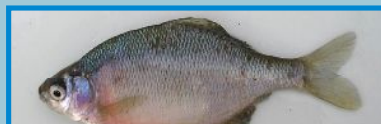
■ **シナイモツゴ** ★ 成魚の体長は7~8cm



(提供：緬谷和海)

ヒンやジュンサイが覆う湖沼や水が緑っぽく濁っているようなところに生息。

■ **ゼニタナゴ** ★ 7~9cm



きめ細かい美しいうろこが特徴で、二枚貝の中に卵を産む。平野部の湖沼や池・水路に生息。

★は外来生物法による特定外来種

★は、かつて多く見られたが生息環境の変化により現在では減ってしまったもの（希少種）

★は本来は生息していなかったが移殖等により生息が確認されたもの（国内外来魚）

